

カラスの知らせ

今坂柳二

わたしら、こうして幸せに毎日を過ごしているけれど、いちばん想い出すなあ小供の頃のことですな。遊び仲間の父ちゃんや兄ちゃんや兵隊さんになってなあ、明神さまの森から出てく様子なんか、忘れようとしたって忘れることなんてできっこないです。始めのうちは「元気で征つて来ます」って言うたのが、何時ごろから変わったのか「元気で征きます」になったんだよね。「征つて来ます」は、お務めがすんだらまた帰ってくるからね、なんだけど、「征きます」じゃあ帰ってこれんじやないですか。誰がこんな非人間的な言葉を考え、教え込んだのか。再び敷居を跨がぬ覚悟を強要したのは……。

その頃、モロヤマにある滝のまわりの山々には、カラスの大群が巢作りをしておりました。皆さんもしておたはずです。いやいや、このお話をわしら年寄りに教えてくれたおウメさん、まだ学校に行つてたかどうかの、ウメコちゃんの頃のことかも分かりません。さて大滝を水場にして棲みついたカラスの大集団、どうしたもんやら一斉に羽ばたきを始めたそう。羽ばたきはますます激しく強く、台風みたいだったそうです。遂に、百羽、二百羽、千羽、万羽。暁の空が、まっくらになったそうでありました。そんな数のカラスが集まったなんて聞いたこともなかったよ。

夜が明けました。多分、ラヂオから「海ゆかば」の楽曲が流れると共に「サイパン島の守備隊全滅」の報が、日本中のラヂオを通じて流れたはずであります。

カラスは神さまのお使いの鳥だったのかも分かりませんな。あつ、そう言えばジンム天皇の道案内をしたのも、三本足のカラスだったっけ？ そうだよ、やっぱりカラスは歴史の破れ目に顔を現す、妖しの国の使者なのかも分からん。いやいや、そうに決まっておりますよ。

因みに、「米軍、サイパン島に上陸。昭和十九年六月十五日」「サイパン島守備隊全滅。七月七日」と史書にありました。やはり魔の国、凶の国から送られた使者だったようです。

いまさか りゅうじ

狭山市笹井在住。二十四歳から俳句に関わって、現在同人誌「つばさ」代表。かたわら、昔ばなしの採集・採話を続け、「龍じいの昔ばなし」以下十冊発行。

編集後記

5月なのに真夏の様な暑さ、7月のフェスタの頃が心配になります。定期総会のあとに市民文化課より、今後の取組みについての説明会があり、文団連は文化の創造、市民文化課は文化の鑑賞に力を置いて、共に協働して文化都市を目指したいと、会報も一助になればと考えます。会報委員会も2年目になりました。お手伝い出来る若い人いませんか。

(高沢正夫)